

2020 年度

訪日団 感想文集

11 月 1 日～2 日

グローバルに活躍する国内企業を訪れる

日中経済交流研究会

●工程表

		A班	B班
	9:00	集合	
	↓	バス移動	
	9:30	津川製作所	三栄金属製作所
	11:30		
	↓	バス移動	
	12:00	昼食 がんこ平野郷屋敷	
	13:15		
	↓	バス移動	
11/2 (月)	14:00	三栄金属製作所	津川製作所
	16:00		
	↓	バス移動	
	17:00	道頓堀ホテル 到着	
	18:00	(講演) 摂陽観光 藤原社長	
	19:00	懇親会	
	22:00	終了	
	宿泊	道頓堀ホテル 泊	
11/3 (祝)		朝食	
	10:00	(講演) 道頓堀ホテル 橋本専務	
	12:00	解散	

☆ A班 ☆

名前	会社	支部
居相 浩介	アベル(株)	八尾
青木 美賢	スター電子(株)	平野
大山 武久	大山印刷(株)	中央南
荻田 晃久	(株)荻田建築事務所	西
北川 真里	イクエ・データ(株)	中央南
合田 耕作	(株)ギャレーグループ	天王寺
坂元 正三	坂元鋼材(株)	西
佐藤 充	大阪総合人財経営(株)	八尾
妹尾 順次	(株)アイナレッシ	西
中島 宏治	法円坂法律事務所	新大阪
西岡 洋子	西岡化建(株)	三島
福田 百合乃	(株)平和化研	八尾
山岡 和美	(株)リバーフィールド	東大阪第2
米田 慎一	(株)インフォグラフィクス	西
阿部 良	ソレイコ税理士法人	京都同友会

☆ B班 ☆

名前	会社	支部
谷本 優	(株)エフエスカンパニー	西
安達 美由紀	心財育成(株)	西
金津 智俊	(株)カナツ加工	八尾
小島 広臣	勝井鋼業(株)	東大阪第3
坂本 進	坂本造機(株)	東成生野
里深 陽子	南陽トレーディング(株)	北第3
野村 明宏	(株)電研社	北第3
広瀬 みゆき	(株)Pink Rose	西
福地 守	福地金属(株)	平野
三原 敏彰	(株)ナガラ	東大阪第3
山本 美愛	法円坂法律事務所	西
YANG JINYE	(株)F・O・G進業商事	EASTさかい
岡坂 哲夫	日光護謄工業(株)	会員外
安富 一博	日光護謄工業(株)	会員外
岡坂 昇	日光護謄工業(株)	会員外

☆一部参加☆

文 敬作	(株)三栄金属製作所	東成生野	2日夕方～
津川 礼至	(株)津川製作所	阿倍野住吉	2日夕方のみ
落合 良寛	三恵ハイブリッド(株)	平野	2日夕方のみ
徳岡 達人	ソリッド(株)	東大阪第3	2日夕方～
中野 幹生	加ト・マニョグラフィック(株)	新大阪	A班、2日昼のみ

<注意事項>

- コロナ感染予防のため、マスク着用をお願いします。マスクについては各自で準備をお願いします。
- 集合時、検温、アルコール消毒（手）の協力をお願いします。
- 集合場所、経路等、当日は訪日委員の案内に従って行動して頂きますようお願いいたします。
- 服装は私服で構いません。

<緊急連絡先>

A班 班長：居相浩介 090-1133-8639 副班長：中島宏治 090-7112-8256
B班 班長：谷本優 090-8532-0007 副班長：小島広臣 090-1670-8301

<訪問先>

津川製作所 TEL：072-240-3623
三栄金属製作所 TEL：06-6754-7682
道頓堀ホテル TEL：06-6213-9040

毎年この時期は、訪中団として30名近い経営者の仲間と中国に訪問していますが、今年のコロナ禍にあつてさすがに訪中はムリなので、別企画として、中国やチャイナプラスワンに進出している企業経営者の話を聞いて海外進出成功の秘訣を探るとともに、外国人になつたつもりで国内のホテルに宿泊する「訪日団」を実施しました。

<1 社目> 津川製作所の津川 礼至さん

ガイアの夜明けにも取り上げられたれた研究開発型企業。新たなモーターの開発に日・中・ベトナムの3ヶ国にまたがるユニテッドな人材で挑む。中国への工場進出で学んだことを生かして、ベトナムにも進出。その経験をもとに大学で講師をしていたことがきっかけで優秀な人材に出会えたとのこと。海外進出、外国人材の活かし方をすごく分かりやすく解説していただきました。

<2 社目> 三栄金属製作所の山下 裕司さん

生野区で台所のシンク用網カゴなどのプレス加工をおこなう会社。ベトナム人の採用を積極的におこない、人を大事に育てながら会社を大きく成長させてくれました。最近ではM&Aで更に大きくしていますが、積極的に買収を仕掛ける訳ではなく、山下さんに経営を任せたいと言われるケースがほとんどとのこと。実際会社を見学して何故そう言われるのかが分かった気がします。どこまでも人を大事にして、気遣いを忘れない人柄に皆さん惚れてしまうんでしょうね。

<3 社目> 摂陽観光の藤原 雅彦さん

最近MBSのミントや日テレのZIPなど、テレビに引っ張りだこの藤原さん。コロナ禍で影響の大きい旅行業社の切実な状況をご報告ありがとうございました。ヘルパー同行型個人旅行など新たな商品開発にも力を入れておられる同友会歴35年の大先輩、まだまだお元気です。

<4 社目> 道頓堀ホテルの橋本 明元さん

10月例会での登壇に続き、11月も連投で登壇していただきました。この方の話はご自身の人生観と会社の経営理念が一致しているので、いくら外部環境が変化しても全くぶれない。まさに理念経営を実践されていてお見事です。ここまでやらないと、社員はついてこないんだなと痛感して少し落ち込みながら、目標ができて元気を貰いました。何度聞いても目頭が熱くなりそうです。

今年は1泊2日の行程で、「大阪人が大阪のホテル泊まる訳ないやろ」というツッコミを受けながらも、募集してみたら定員30名が満員になるほど大人気。皆様の期待に応えられるかプレッシャーでしたが、大好評で無事に全ての行程を終えました。GoToトラベルも活用して、1泊3食付きでお得に楽しんで貰えたかなと、訪日団・団長として満足しています。

訪日団を終えて

コロナ禍での訪日団を実施するにあたり
参加者にとって何が最良なのか、そのためにはどんな方法があるのか、
どこを訪問するのがいいのかを問い詰め続けた訪中委員会のメンバー

その要請を受けて、
冷静な分析力を示していただいた津川さん
暖かい包容力で参加者を受け入れていただいた文さん
新型コロナウイルス感染の影響を考えると訪問者は受け入れにくい状況下であったにも関わらず、快く引き受けていただきました。
コロナ禍において旅行業界の姿を赤裸々に語っていただいた藤原さん
逃げ出したくなる現状なのに、最前線で奮闘されている「使命」を持った橋本さん
輝いた眼で訪問先を見学し、報告を聞く参加者

「ある時は先生」「ある時は生徒」と
皆が傍観者ではなく主体的に関わったからこそ
今できる最大限の成果を上げることができたと感じました。

来期は、どのような形になるのかわかりませんが
参加者全員で作りに上げていくような「訪中団」ができればと考えています。

大山印刷（株）
代表取締役 大山武久

2020年度訪日団参加の感想文

(株)カナツ加工

金津 智俊

2020年11月2~3日にかけて、訪日団に参加させていただきまして、誠にありがとうございます。

初日の会社訪問は、1社目が、三栄金属製作所様で2社目が津川製作所様でした。

1社目の三栄金属製作所様は大阪市内の工業地帯にありまして、たくさんの方が存在しているのには驚きを感じました。ベトナム人雇用の方にはばかり気を取られていたが、人との繋がりで工場の数が増え、7カ所に点在している力強さは、尊敬いたしました。また、各工場にリーダーを育成して配置する、人育ての極意を次回は学びたいと思いました。

2社目の津川製作所様では、テレビ放送されました「ガイアの夜明け」この中での中小企業のビジネスマッチングを金融機関の指導のもとで、実用化までする場面を視聴させて頂いたが、我が、大阪中小企業家同友会にも、この様な機能を先導する人物が出現する事が期待したいと思います。電気を発生させる、コイルの作成を見学させていただきました、津川製作所様でも、ベトナム人の従業員さんを採用されていて、日本人の若者の人財不足が感じられました。

1日目のホテルでの勉強会は、摂陽観光様の藤原社長様の講演でした。

【皆様、売り上げが0になる経験はありますか？】の問いかけに背筋が寒くなりました。コロナの影響の怖さ実感しました。

2日目の勉強会、報告者は、橋本専務さまでした。流暢な報告で、時間が早く過ぎてしまい、報告の内容もとても参考になり、社員様との交換日記、毎年度の表彰式、常に改善を目指して心をひとつにしての社員様との一体化は、見習うべきことばかりでした

追伸。

2日の外出で、訪日団の皆様に、多大なるご迷惑とご心配を、お掛けしたことを深くお詫び申し上げます。今後は、団体行動時の行動を自粛して、不要不急の外出は控えますので、今後ともよろしく願いいたします。

橋本明元専務との出会い
＝コロナ禍だからこそその訪日団＝

坂元鋼材株式会社 坂元正三

■ コロナが来た 2020 年

2020 年は「コロナの年」として後世に記憶される年になりました。そして、我らが日中経済交流研究会にとってもまた歴史に残る年になってしまいました。

春先からのコロナ恐怖により海外との交流が制限されました。訪中委員会は「東京オリンピック開催が訪中団可否の目安」としていましたが、五輪の延期とともに秋の訪中団もなくなりました。訪中団のない日中、毎年当たり前のように訪問していた中国に行けなくなった最初の年になりました。

コロナ禍が拡大するにつれ、例会委員長として私も悩みました。このコロナの年、日中の活動として何がふさわしいか。誰から、いつ、何を学んだらよいか。そこで思い浮かんだのが道頓堀ホテルの橋本明元専務でした。

■ 橋本専務との出会い

直接の面識はありませんでしたが、インバウンドの観光客を呼び込んで大成功している経営者として著名でした。コロナで海外からの需要の激減する中、道頓堀ホテルはどのような経営で危機を乗り越えようとされておられるのか。ご本人から現地で直接お聴きしたい。そう思って橋本専務にアポイントを取ったのが 8 月でした。

大山会長、居相訪中委員長などと数名で訪問しました。その最初の面談で橋本専務に強烈な印象を持ちました。

3 代目として引き継いだ老舗ビジネスホテル。乱立するホテル群と差別化するために始めたインバウンド戦略。その成功により昨年までは年間数億円の経常利益を叩き出していました。その底にあったのは「日本と世界の架け橋になる」というビジョンでした。そして「社員を大切に経営」という理念を貫いて社内をまとめ上げた手腕をお伺いし、経営者としての凄いほどの力量を感じました。

しかしコロナで状況は 180 度変わります。宿泊客のほとんどを占めていた海外からの旅行者が消滅し、さらに国内需要も激減。瞬間的に売り上げゼロにまで落ち込むという、まさに想定外。ダム式経営を心掛けてきた同社にとっても「まさか」という事態でした。

■ 毎月 6000 万円のキャッシュアウト

春には系列のすべてのホテルが休業に追い込まれた。それでも約 100 人いる正社員、それにアルバイトにも給与を全額保証しました。過去数年間いくら絶好調だったとはいえ、背筋が凍る思いだったはず。維持費などを合わせて毎月 6000 万円がキャッシュアウトです。

心の葛藤、迷い、そして信念。経営は決してきれいごとではない、しかし――。

■ 例会とのコラボ

最初の 8 月の面談でこのような話をお聴きし、我々はたちどころに橋本専務に魅了されました。この熱血経営者の話は例会 1 回だけでは聴き尽せない。そこで 10 月例会、11 月「訪日団」をセットにして例会・訪中のコラボ企画が実現したわけです。

10 月例会を初回として現在進行形のコロナ事情を話してもらおう。2 回目として訪日団では道頓堀ホテルに宿泊してインバウンド体験をし、橋本専務の講演では昨年までのインバウンド成功ストーリー、そして経営哲学や個人のストーリーを語ってもらうことにしました。

10 月例会は 60 名ほどの参加者をお迎えし、久しぶりのリアル例会として道頓堀ホテルの大宴会場で開くことができました。今年の日中としても 4 月の総会が中止・延期になり、6 月例会はオンライン。だから仲間の元気な顔を久しぶりに見ることができました。

橋本専務の例会報告は、コロナ禍による急転直下の経営危機を赤裸々に語る 90 分、まさに手に汗握る迫真の大報告でした。

続いて数週間後に実施された今回の訪日団でも、日中ハーフとしての生い立ちや社会人デビューからの個人史をたどり、そして海外客に日本のおもてなしを提供するホテルとして活躍されている現在までを、見事な報告にまとめてくださいました。苦境にあっても社員を守り通す理念経営、そしてコロナを跳ね返す強い信念に会場は感動に包まれました。

ホテル業界、関西だけにとどまらず、これから日本を代表する経営者になっていかれるに違いない大人物だと確信させられました。

■ 明けない夜はない

締めくくりに、10 月例会で印象的だった橋本専務の言葉を引用します。

「コロナになって気を付けたのが『絶対に他責にしない』こと。政府が悪い、中国のせいだ、マスコミが悪い――など。絶対に他責にしないこと。それを社員にも言っています。もし良くない事態があったなら『自分にも何か問題あったのではないか』と考えること、そうでないと成長はない。『お父さんはコロナの時に逃げなかった』――。いつの日か子供たちにそう言いたい」

「明けない夜はない。でも夜にしかできないことがある。いまは夜にしかできないことを精いっぱいすると決めている。夜に頑張った人ほど、夜が明けたときの喜びはさらに大きい、そう信じてこれからも前を向いて進んでいく」

橋本専務、そして道頓堀ホテルのスタッフの皆さん、ありがとうございました。おかげさまで、素晴らしい 10 月例会、そして訪日団になりました。コロナによる苦境はまだまだ続きますが、私たちも負けません。現代を生きる中小企業家として無限の勇気をいただきました。

訪中ではなく日本人が訪日？なんか違和感があるのを抑えて参加しました。いつもの訪中団のワクワク感はなかったですが、どこに行っても日本語が通じ食事は基本日本食が出てくることも悪くないと思います。いわば海外拠点のある企業の宿泊付きの訪問会と思えばいいのかもしれない。

三栄金属製作所

ここ十年ほどで企業規模が拡張したのは第一にはベトナム社員に優秀な人が多かったこと、2番目には同業者が辞めていった設備を買い受け、仕事も引き継げたこと。所謂残存者利益として無理に仕事を取りにいかないで安定した確実なモノづくりで成長できたことがあげられる。また社長がよく社員さんと向かい合いコミュニケーションが図られ適材適所に人がいるのが成長の支えになっていると思いました。

ベトナム工場も当初はいろいろ困難なこともあったようですが自社工場となり利益がでるようになったようで部品製造会社として今後成長されていくのが見えます。

津川製作所

特殊なモーター製造で地道に成長してきた会社で中国に進出されましたが人件費の高騰などで苦勞されている様子。本社で中国人が開発要員としているほど日本人外国人の壁がない自由な社風がある。また収益的に問題があったが外部の資本を取り入れて障害がなくなったようで今後もニッチな分野で成長が見込まれる。

撰陽観光

今回のコロナ騒ぎでホテル業界と並び最も影響を受けた観光業で収入ゼロにもなった惨状をありのまま話されました。一番気になった点は政府のちぐはぐな対応の仕方でした。

GOTO トラベルの特典がやり方によって受けられない点があったり、慌ただしく施行されたために理屈に合わないことが多いのが分かりました。また復活していない外国への渡航制限により国内旅行だけでは片肺飛行にしかならないことなどが理解できました。

道頓堀ホテル

例会で橋本さんから一度拝聴しこれほど社員に対しての思いがありそれを実行している会社があるのかと驚いていましたが、今回は入社6年目の女性社員さんも話し手になってくれて、より真実味が感じられました。このホテルはコロナ禍でまだまだ本調子ではないが外国人客が戻ってきたら着実にコロナ前の水準以上になると確信できました。今回宿泊して、橋本さんの話が本当であることが社員さんを通じて実感できたのが良かったです。

2020 訪日団 in 大阪に参加して

株式会社アイナレッジ 妹尾順次

まずは居相団長を始め、訪中委員の皆さんには大変お世話になりありがとうございました。中国となると、なかなか弊社にとってはハードルが高く参加できずにおりましたが、今年はコロナのおかげで訪日団として参加することができました。特に今回は海外に進出している製造業の会社を実際に見学できるということで、非常に楽しみにしておりました。

一日目、津川製作所さんにつきましては、実際にバスで行ってみると、弊社のお客様のお店の真向かいだったのでとても驚きました。事業内容も実際に現物を見せていただいたの説明でしたので、とても分かりやすかったです。また、ガイアの夜明けのVTRを見せていただき、新しい事業に挑戦されている姿も印象的でした。ベトナムの方を多数雇用されているの実体験（給与明細を公表する文化）のお話なども、とても印象に残りました。

三栄金属製作所さんにつきましては、西支部にて一度例会報告をしていただきましたが、会社へ実際に訪問させていただいたのは初めてでした。建物の中は非常に広く複雑で迷路のようでした。津川製作所さんもそうでしたが、従業員さんがとても礼儀正しく、また笑顔であいさつをされていたのが印象的でした。会議室では社内イベントの写真や、従業員さんの実際の言葉などが壁に貼られており、社内の雰囲気の良い感じました。今まで実際にどのようなものを製造されていたのかが今一つピンときてなかったのですが、今回の訪問でもよくわかりました。撰陽観光さんにつきましては、私の前職が旅行会社に勤めていたこともあり、また西支部の白井さんの親会社ということでとても楽しみにしていました。まず、これまで日本だけでなく、海外でも様々な経営を揺るがす事件や事故があったにもかかわらず、設立から60年も長く続けられているのが素晴らしいと思いました。また、障害をお持ちの方向けの旅行をオーダーメイドで企画、実践されているのが素晴らしいと思いました。そして、二日目の橋本専務の講演につきましては、学ぶことが多すぎて、気が付けばノートにぎっしりメモをしていました。このような状況でも、社員全員が一致団結し、会社を守ろうとしているのが本当に感動的でした。経営ビジョンで「共に幸せと誇りを感じる会社」と言われていましたが、弊社にとってもそんな素晴らしい会社になれば私もどんなに幸せかと感じることができました。

懇親会では楽しい企画で盛り上げていただき、また、たくさんの方とお話ができとても有意義な時間となりました。二日間はあっという間でしたが、学びも多く、今回本当に参加できて良かったと思っています。社内の組織体制を整え、次回は訪中団に是非参加したいです。

以上

「訪日団」に参加して

弁護士法人法円坂法律事務所 中 島 宏 治

2020年11月2日、例年の「訪中団」が組めませんでしたので、発想を逆転させて、「訪日団」という、日本の企業を訪問する企画にしました。当初は、大阪の企業が大阪の企業を訪問するので、人が集まるの？という心配もありましたが、定員の30名に達する盛況ぶりで、内容も良くて、本当に良かったです。

企業訪問した2社（株式会社津川製作所、株式会社三栄金属製作所）の訪問は、単に企業訪問というだけでなく、中国やベトナムの事業と日本における事業の関係性がよく伝わる内容でした。試行錯誤しながら、グローバルに展開してる企業の姿は、とても刺激を受けました。

また、新型コロナウイルスの影響により事業に大きな影響を受けた、摂陽観光藤原さんと道頓堀ホテル橋本専務のお話も聞きました。特に大阪はインバウンドの影響が大きく、新型コロナウイルスにより外国人観光客が激減したインパクトは大きいものでした。お話の中で「GOTOキャンペーン」の恩恵の大きさも実感できましたし、売上が無くなったときにどのようなことを考え、どのように社員と話をしたのか、生々しい話をお聞きすることができました。

橋本専務のお話を聞く中で、どうして社員さんは橋本専務から離れなかったのかをずっと考えていました。

1つめの理由は、経営理念を社員さんと共有することができていたことです。「共に幸せと誇りを感じる会社」という経営理念に基づき、入社段階から、研修等を通じて徹底的に理念を伝えていたことがわかりました。

2つめの理由は、社員さんのやりがいを高める仕組みづくりです。権限を委譲し、改善提案を繰り返し、成長を実感できること、会社が社員さんを大切にすること、仕事が社会の役に立っていることを常に感じるような仕組みを作っておられ、日々実践されていることがよくわかりました。

「自ら共感・使命を考える社員」という言葉が印象的でした。社員が経営理念に共感し、自らの使命と考えてくれる社員にどうやって育てていくか、その大事さを痛感した「訪日団」でした。

皆さんの感想を聞いて、「訪中団」が組めなくてもあきらめずに「訪日団」が組めて良かったと思いました。次がどうなるか、予測が付きませんが、いろいろと工夫して団を組みたいと思います。参加された皆さま、ありがとうございました。

以 上

日中経済交流研究会 2020 訪日団参加感想文（11月2～3日）

参加を決める

この1年近く、新型コロナウイルスの感染拡大に悩まされ、事業の方もどうなってしまったことやらと、先が見えないまま悪い想像をしてしまう、こんな日が続いていました。そんな時に、いつもの訪中団に変えて訪日団を編成しようと発表があり、なるほどと思いました。しかし、すぐには参加を決められなかった、その原因は出掛ける不安を家族が言うからです。全世界、日本中がまるで壊れかけたような経済の最中、現況を知るため参加を決めました。

（株）津川製作所

津川製作所のモーター製造工場ではコイル線を正確に巻くベトナム人社員の勤勉な動作を見ました。津川社長のお話から日本のものづくりがいかに技術力や精密さを求められているか、その期待に応える企業努力をやり遂げる中で、価格競争も強いられるという厳しい現実を聞きました。どうしても気になっていた、設立が若く資本金が少ないことを質問できないままでおりましたが、その答えは、昨年合資の資金援助を受けたという話を社長自ら話していただき、胸が詰まりました。川下の仕事は利益幅が圧縮される、無くてはならないパーツであっても最後の販売で価額が決まる、どの段階が一番利益を確保できるのか、といったことを考えました。そしてほうれん草の収穫機械を自社開発し、川上で流通させようとする意欲を素晴らしいと感じました。

（株）三栄金属製作所

ちょうど今年で創業50年を迎える三栄金属製作所、山下社長の作られた細やかな年表を見ながら、あの当時を社会の出来事や弊社の状況も振り返りながら聞きました。父母から息子へと受け継がれ、弟や義理の弟も抱え込み、自身の息子も務めることとなった家内工業でした。時代の変遷の中、山下さんのその都度の経営判断は、取引先企業の廃業や倒産などで行先を失った設備の購入や人の受け入れという、チャンスをつかんだことでした。

また、ベトナム人実習生を受け入れたことが、その後順調にベトナム工場を開設することに繋がりましたが、10年の歳月が流れてようやく粗利が黒、続いて念願の黒字決算を収めたと言います。その間企業は本社からの金銭的応援で赤字工場を支えることができるのか、という本社の強さ、勢いのある成長をすごいと思いました。工場の進捗状況をカメラで集積し、生産に間違いがないかを見守る設備にも、すべてを把握しておかねばという経営者としての真面目さが感じられます。

会社の風土は食堂に掲げられた社員さんの写真や言葉、飾り物でわかりました。食事をするときの風景はあんな笑顔に包まれたい、家内工業の良さを大きくなって残している、社員を愛する心が溢れていました。

道頓堀ホテルの若き支配人

以前から例会に集合するこのホテルの玄関に並んだ大きな顔のアートには度肝を抜かれていました。四つの大陸の人々を表したという創始者の意図を、若き支配人の講演で聞きま

した。コロナ禍で相当大きな影響を受けたホテル業界。少し前まではインバウンド戦略で外国人観光客の宿泊を受け順風満帆であったはず。第2ホテルの営業開始、第3には沖縄で新しいホテルの進出計画も落成を待つばかりである道頓堀ホテルグループのこの半年間の軌跡をたどりました。中途半端な予約を受けず、従業員に休業補償をして潔く全館休館とすることを決められたことに驚き、改めて外国からの観光客が減少（殆ど無い）した実情を知り、この影響の大きさが分かりました。

橋本専務は自身の中国人としてのルーツを伝え、中国から日本へ観光に来る人たちの旅を究極に楽しんでもらうためには、どのような接待をしたら良いかを従業員とともに取り組んできたこと、出来ることすべてをする意気込みを語りました。ロビーに入った途端、雰囲気は日本調のセンスにリメイクされたことに気づき、宿泊の室内もとても清潔でおしゃれなリニューアルが施されていました。

コロナ余暇の時間を自然体で勉強に費やす者、身体を持って余しホテルが気になり自発的に掃除を買ってでる者、これこそが通常我々が求めている社員のやる気ということなのでしょう。支配人として真剣に逆境に立ち向かう姿が従業員にも大きな教育となり、礎となったことと思います。

旅を終えて

日本の力はどのようなものなのか、いつの間にかGDP順位も下がり、世界的競争力も先進国では後の順位となってしまった日本。しかし大手企業を支えるサプライチェーンの技術力は確かなはず、などと思い、道頓堀ホテルの他にはないおもてなしを思い出しながら、もうすぐ色づく御堂筋を渡りました。

三島支部 西岡化建（株） 西岡 洋子

訪日団参加感想文

初めて訪日団の参加をいたしました。

企業訪問はとても内容が濃く、どんな質問にもお答えいただけたことに大変有難く思っております。

弊社も、2021年に初めて外国人の方を5名採用いたしました。わからないことだらけですので、この訪日団での企業訪問で何か良いヒントをいただきたいという思いで参加したのですが、思いのほか内容もふんだんで、皆様との交流も大変、有意義な時間となりました。得たことはたくさんありました。

1泊2日がとてもあっという間に感じられ、道頓堀ホテル様の取り組みや、おもてなしの心にも感動し、帰りにはたくさん、ホテルの通販部門の中華料理商品を購入して帰りました。とても美味しかったのでまた購入をしようと思いホームページを拝見していると、これまたすごいことに、中華料理に使われているお野菜は契約農家様をもたれておられ、お野菜の全てを無農薬野菜でやっているそうです。とても美味しくてボリューム満点の中華料理、とても貴重な食材探しから食を支えてもらっていたなんて感動です。訪日団に参加していなければ道頓堀ホテル様の素晴らしい取り組みも知らずに過ごしていたと思います。

色んな方とのご縁をいただいた貴重な訪日団の旅でした。これだけの段取りや調整をされた訪日団の皆様にも感謝いたします。ありがとうございました。

--

★☆☆-----★☆☆

株式会社平和化研

第二工場 八尾市西弓削1丁目61番地

(三価専用工場) TEL 072-948-1609

第三工場(axis) 八尾市西弓削1丁目38-1

(六価専用工場) TEL 072-929-9997

総務部 福田 百合乃

Mail : yurino@hkp-heiwa.co.jp

URL : <https://hkp-heiwa.co.jp/>

★☆☆-----★☆☆

福地金属株式会社 福地 守

この会では毎年一度訪中団がありこれで入会された会員もたくさんいらっしゃいます。今年はまだかこのようなコロナ過になるとは想像をする時間もないうちに世界に感染が拡大してしまいました。今年の訪中は当然実行不可能となりました。そんな中訪中団の方にはこんな素晴らしい企画を立てていただいたことにまずは感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

三栄金属製作所では文社長の行動力が今の三栄を作ったことは明白です。弊社と同じプレス加工からの創業ですが今では大手メーカーに当てにされる部品メーカーになられたのだと感心しました。親族が多くなれば身内ならではの争いも多くなりますが文さんは会社組織に公明な組織を作られたことが進化の始めです。大きな変化はベトナム人の採用から。ここで彼は外国人の採用を人件費ではなく重要なパートナーとして思いやりをもった採用であったことが重要な点ではなかったでしょうか。きっとそんな誠実で思いやりのある生き方が家族から社員に広がりそれがお客様や仕入れ先お付き合いの仲間企業にも伝わったのでしょう。またその裏には絶対成功するという執念に近い強い思いが感じられました。

続いて訪問した津川製作所さんはモーターの開発技術が強みでしかも量産用ではなくその機械固有のモーターを開発されています。数多ある社会の問題をモーターの技術で解決していく姿勢がまた新たな顧客を呼んでくるのだと思いました。中国でまたベトナムでそして日本でそれぞれの国の強みを活かす。ここでもやはり鍵を握るのは外国人社員の能力の活用でした。

いま日本の中小製造業の現場では真面目で学力能力ともに高い外国人が支えてくれているとすれば働き方改革とやらで休日数や給料ばかりを気にする日本人はこれからどうしていくのだろうと余計な心配をします。

最後に道頓堀ホテルの橋本専務のお話です。専務の講演は先月の例会でも聞きましたが何度聞いても心が熱くなります。中国と日本の間に生まれた自分は日本と中国また世界とをつなぐこと、これこそが使命である。と気づいてからずっと一貫した生き方をされています。

中国でのホテル修行ではホテル従業員の地位の低さを感じその地位の向上を目指し最も厳しいと言われるシャングリラホテルを選んだと言われました。

今回の3名ともに共通して感じたのは自分に対する厳しさと、使命感を持った一貫した行動とそれを続ける意志の強さです。

橋本さんが言われるには採用の失敗は教育では取り返せないとのこと。採用は会社の社会的使命に共感した者だけと言われます。どんなときも譲らない厳しさと入社後の家族としての徹底した優しさとが全社一丸の企業を育てることは間違いないと感じました。

社員が外国人とか日本人とかではなく、経営者が強く徹底した意思を持って使命を貫く行動を継続し続けることがいい会社作りの共通点であることは間違いないようです。

大阪府中小企業家同友会 日中研究会 訪日団 手記

11月2日 今回はコロナウイルスの関係で中国に行くことができず訪中団の企画での弊社訪問をして頂き本当にありがとうございました。工場見学に30名を超える日中研究会の仲間が集まって見られるというのはいつもと違う緊張感がありドキドキでしたが専務(弟)がいつもと違う笑顔を見せてくれて(笑い)一生懸命に対応してくれたのは嬉しく、私も自社の歴史や物語を聞いてもらうことでの学びがありました。今まで取り組んできたことベトナムの人の雇用や事業譲渡・ベトナム工場の建設など 同友会に入り日中研究会に出会ったこの12年間を必死で走り続けたことが頭の中を通り過ぎていきました。この中でも日中研究会に入り初めての中国に訪問した時から自社の物語の時計が回り始めてきています。その時の会長の樋爪さんから大喜金属さんの現地工場を案内してもらい中小企業(町工場)頑張っていけば海外に工場が持てるという夢を持つことができました。その夢を追いかけていくにはどうすべきかを考えてきたのがベトナムの社員雇用や事業譲渡をすることでの事業の拡大に繋がっていきます。やはり嬉しいですね、自分のやってきたことを仲間聞いてもらうこと 大変なこともありました聞いてもらうことで心

が晴れてきました。今回私が先生となって会社のことを話しました。会員の皆さんは生徒として真剣に聞いていただき本当にありがとうございました。いろいろな質問の中に父と母が生きておられたら大変喜んだでしょうと言われた時には熱いものがこみ上げてきました。これがある時には先生 ある時には生徒になって真剣に学んでいく姿勢が好きです。日中研究会の方針を実践させていただきました。今 大阪同友会で日中研究会が一番熱い集団です。

株式会社三栄金属製作所 文 敬作（山下 裕司）

2020/11/24

株式会社インフォグロース

米田 慎一（西支部所属）

日中経済交流会に入会して初めての訪中国（今回はコロナ禍でしたので訪日団でした）に参加しました。いつもの日中の例会や支部例会とは全く違い、事業されている現場で隠し事ない生の経営報告、それも中国やベトナムへの進出と外国人雇用のことも聞くことができ、とても学びの多い2日間でした。その中でも個人的には企業の“存続”と“成長”について多くを学びました。

企業の“存続”については、経営者の並々ならぬ覚悟が必要であることを改めて学びました。中小企業の社長はオーナーであることに誇りを持っている方が多くいる中、“存続”して雇用を守るためにはオーナーの座を捨てる覚悟、売上を上げて会社を“存続”させるためには不十分な制度設計であることが明白な制度でも問い合わせを重ねてその制度に果敢に挑む覚悟、退路を断って会社を“存続”させる覚悟を学びました。

企業の“成長”については、お客様のニーズを通して新たなことに挑戦し続ける重要性を学びました。安定して利益が出ていると得てして現状を変えることの優先順位が下がっていきがちですが、常に危機感を持って新たなことに挑戦し続けることが、唯一会社を“成長”させることのできる施策であることを学びました。

1泊2日の訪日団を通じて企業の“存続”と“成長”について多くを学びましたが、その根本には経営者の熱い情熱があり多くの刺激を受けることができ充実した2日間でした。